

科目名 (英文表記)	アカウンティングⅡ (コストマネジメント) (Accounting Ⅱ)		
科目区分	基礎科目	単位数	2 単位
担当教員名	籾本 智之	ナンバリング	MBA_C_AC 5221
研究室番号	457	研究室電話番号	27-5347
Eメール・アドレス	hatamoto@res.otaru-uc.ac.jp		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
授業の目的： 現代のビジネス社会において、自社や競合企業の経営実態を理解することは、経営管理者にとって不可欠な能力である。本講義では、製造業を中心にその経営実態を理解するため、まず製品原価計算の方法と財務諸表の関係を解説する。さらに、現代の製造会社では、生産活動における原価管理のみならず、製品開発や販売などの他の活動の管理でも、各種管理会計情報が利用されている。本講義は、管理会計情報への理解を深めるため、次のテーマを論じる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 製造活動における原価計算・管理会計（実際原価計算・標準原価計算） 2. 製品開発活動における原価計算・管理会計（原価企画） 3. 原価計算・原価管理における革新（戦略的コストマネジメント） 4. 活動基準原価計算 5. CVP分析 6. 差額収益・原価分析 到達目標としては、営利・非営利を問わず、コストに関する意思決定をしなければならない各階層の管理者として、安心して意思決定を行うことができるようにすることにある。なお、サービス業であっても製造業のコストマネジメントは適用できるところが非常に多い。			
使用教材： 上埜 進 他『管理会計の基礎 第4版』税務経理協会、2010年。 講義資料：適宜配布する。			
成績評価の方法： 次の評価項目を総合して評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・出席 10% ・事前課題の提出 10% ・小テスト 10% ・事後課題の提出 20% ・授業への参加度（事例、討論） 10% ・最終試験 40% 課題の締切後の提出は評価を20%にする。 小テスト6回の内3回以上受験できない場合は不可とする。 評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。			
履修上の注意事項： <ul style="list-style-type: none"> ・「アカウンティングⅠ（財務会計）」（基本科目）を履修済みのこと。 ・MS-Excelの基本をあらかじめ修得しておくこと。 ・各モジュールの内容は変更することがある。 			

授業の内容及び方法

モジュール 1		製造業における会計情報 1
事前準備	『管理会計の基礎』第 1～3 章を読みなさい。また、指定した企業の貸借対照表、損益計算書および製造原価明細書を 1 社 1 期分入手し、E-learning システムにアップロードし、印刷の上、持参すること。	
第 1 時限	製品原価計算の必要性	
<p>配付資料に基づき、製造業でなぜ製品原価計算が必要であるのかを商品販売業との比較で説明する。また、その手続きの概要を解説する。この時限では、商品販売業の売上原価に相当する費用が、製造業では製品製造原価となることが最も重要である。</p>		
第 2 時限	総合原価計算	
<p>配付資料に基づき、総合原価計算の手続きの概要を、簡単なゲーム「折り鶴」を通じて、解説する。この時限では、仕掛品の数量を、物量と完成品換算量の 2 種類で測定することが最も重要である。</p> <p>本モジュールでの記憶すべきキーワードは、コストと原価計算対象です。正確な定義ができるように理解してください。</p>		
復 習	<p>以下の 2 つのケースの解答を Word で作成し、E-learning にアップロードしなさい。</p> <p>小樽製作所・銭函工場（内容は別途提示する）</p>	

モジュール 2		製造業における会計情報 2
事前準備	以下のケースを読んで、問いに答えなさい。解答は Word で作成し、E-learning システムにアップロードしなさい。 スミス・ダイス社（内容は別途提示する）	
第 3 時限	個別原価計算	
<p>まず、前回の内容について小テストを行う。つづいて、配付資料に基づき、個別原価計算の手続きの概要を解説する。この時限では、総合原価計算とは違い、製造指図書単位で製品別計算を行うことが最も重要である。</p>		
第 4 時限	部門別個別原価計算	
<p>前時限の講義内容の理解を深めるために、ケース「OBS 製作所」についてグループでディスカッションしてもらおう。そして、配付資料に基づき、部門別個別原価計算の手続きの概要を解説する。この時限では、正確性と原価管理の点で原価を場所別に集計することが最も重要である。</p> <p>本モジュールで記憶すべきキーワードは、直接費、間接費、直課、配賦、配賦基準、配賦基準量と配賦基準総量です。正確な定義ができるように理解してください。</p>		
復 習	<p>以下のケースの解答を Word で作成し、E-learning にアップロードしなさい。</p> <p>OBS 工業（内容は別途提示する）</p>	

モジュール 3		標準原価計算と標準原価管理
事前準備	『管理会計の基礎』第9章を読み、さらに他の文献を参照しつつ、「標準原価管理と原価改善」について A4 用紙 1 枚でレポートしなさい。レポートは Word で作成し、E-learning システムにアップロードすること。	
第5時限	標準原価計算と原価差異分析	
<p>まず、前回の内容について小テストを行う。つづいて、配付資料に基づき、標準原価計算の手続きの概要を解説する。この時限では、標準原価と実際原価を比較して、差異を明らかにし、会計的に分析することが最も重要である。</p>		
第6時限	標準原価管理と原価改善	
<p>前時限の講義内容をふまえて経営管理目的での管理会計情報の利用について理解を深めるために、ケース「A 事業部大阪営業所」についてグループでディスカッションしてもらおう。そして、配付資料に基づき、標準原価管理と原価改善の手続きの概要を解説する。この時限では、管理会計情報を経営管理目的で利用する上での設計ポイントを理解することが最も重要である。</p> <p>本モジュールで記憶すべきキーワードは、原価標準、標準原価と実際原価です。正確な定義ができるように理解してください。</p>		
復習	以下のケースの解答を Word で作成し、E-learning にアップロードしなさい。 OUC 製作所（内容は別途提示する）	

モジュール 4		正確な原価計算
事前準備	『管理会計の基礎』第10章を読み、以下のケースを読んで、問いに答えなさい。解答は Word で作成し、E-learning システムにアップロードしなさい。 Journey's End 社（内容は別途提示する）	
第7時限	ABC（活動基準原価計算）	
<p>まず、前回の内容について小テストを行う。つづいて、配付資料に基づき、ABC の手続きの概要を解説する。この時限では、活動に注目して、活動を原価計算対象にすることが最も重要である。</p>		
第8時限	ABM（活動基準原価管理）	
<p>前時限の講義内容をふまえて活動の管理のための原価情報について理解を深めるために、ケース「クロネッカー社」についてグループでディスカッションしてもらおう。そして、配付資料に基づき、ABM の手続きの概要を解説する。この時限では、活動の量を活動ドライバーで測定することが最も重要である。</p> <p>本モジュールで記憶すべきキーワードは、資源、活動とコストドライバーです。正確な定義ができるように理解してください。</p>		
復習	以下のケースの解答を Word で作成し、E-learning にアップロードしなさい。 Nykee 社（内容は別途提示する）	

モジュール 5		原価企画と戦略的コストマネジメント
事前準備	『管理会計の基礎』第11章と以下のケースを読み、「原価企画」についてA4用紙1枚でレポートしなさい。レポートはWordで作成し、E-learningシステムにアップロードすること。なお、レポートの様式は別途指示する。 キッチンヘルプ社（内容は別途提示する）	
第9時限	原価企画	
まず、前回の内容について小テストを行う。つづいて、配付資料に基づき、原価企画の手続きの概要を解説する。この時限では、原価を発生時ではなく、決定される開発段階で管理するということが最も重要であることを学ぶ。		
第10時限	戦略的コストマネジメント	
前時限の講義内容をふまえて活動の管理のための原価情報について理解を深めるために、ケース「某工場」についてグループでディスカッションしてもらおう。この時限では、改善案を出すこととその効果を測定することがコストマネジメントにおいて最も重要であることを学ぶ。 本モジュールで記憶すべきキーワードは、許容原価と成行原価です。正確な定義ができるように理解してください。		
復習	以下のケースの解答をWordで作成し、E-learningにアップロードしなさい。 スナッピー・タイル社（内容は別途提示する）	

モジュール 6		CVP分析
事前準備	『管理会計の基礎』の第5章を読み、以下のケースの解答をWordにより作成し、E-learningシステムにアップロードしなさい。データ処理ではExcelを使ってよい。 OBS食品（内容は別途提示する）	
第11時限	費用分解	
まず、前回の内容について小テストを行う。つづいて、配付資料に基づき、費用の変動費と固定費への分解方法を解説し、さらに、その際注意しなければならない問題点を指摘する。この時限で学ぶ最も重要な点は、費用を固定分解する技法の計算精度と、技法の現場での受入度である。		
第12時限	損益分岐点分析	
前時限の講義内容をふまえてセールスマックスについて理解を深めるために、計算問題についてグループでディスカッションしてもらおう。この時限で学ぶ最も重要な点は、CVP分析が短期利益計画段階での意思決定であることである。 本モジュールで記憶すべきキーワードは、変動費、固定費と損益分岐点です。正確な定義ができるように理解してください。		
復習	以下のケースの解答をWordで作成し、E-learningにアップロードしなさい。 アレン社（内容は別途提示する）	

モジュール 7		差額原価・収益分析
事前準備	教科書の第7章をよく読み、以下の問題に対する解答を Word で作成し、E-learning システムにアップロードしなさい。 ジョージ・ジャック（内容は別途提示する）	
第13時限	意思決定と関連原価情報1	
まず、前回の内容について小テストを行う。つづいて、配付資料に基づき、意思決定問題を解決するために有用な原価あるいは収益情報はいかなる概念であるのかを解説する。この時限で学ぶ最も重要な点は、意思決定には関連原価が有用であることである。		
第14時限	意思決定と関連原価情報2	
<p>前時限の講義内容をふまえて、意思決定のタイプと適切な概念を結びつける練習のために、ケース「サマンサ・リンガー」、「クライメート・コントロール社」および「ソレックス社に」についてグループディスカッションをしてもらう。この時限で学ぶ最も重要な点は、具体的な意思決定について、置かれた状況を正しく把握することが正しい意思決定につながることである。</p> <p>本モジュールで記憶すべきキーワードは、差額原価、機会原価と埋没原価です。正確な定義ができるように理解してください。</p>		
復習	以下のケースの解答を Word で作成し、E-learning にアップロードしなさい。 バナー社（内容は別途提示する）	

モジュール 8		試験
事前準備	これまでの講義を通じて習得した、原価概念、総合原価計算、個別原価計算、標準原価計算、CVP 分析、ABC、戦略コストマネジメント、差額原価・収益分析などを復習しなさい。	
第15時限	試験	
90分の試験を行う。		